

ち話しもなんだからと言うことで、我らが台所で、生き残ったビールを飲みながら、案を練ることにした。これが事実上、少なくとも俺がそこに住んでいた間、5階西側の台所で、そこの住人によって開かれた最初の酒宴となった。それ以来、俺達は、「ハロー」だけの付き合いではなく、台所で一緒に飯を食ら

り、ビールの空きビンの山を共同で築いたりする仲になった。

あの時、どんな効果的な対策案が出されたかと言うと、特に何も出されなかった。結局犯人も分からずじまいだった。俺がちまービンゲンを去ってからも、次々と新しい貼紙がされているのかも知れない。

スウェーデンに留学して

教育学研究科学生 上田 毅 毅



1989年夏から約1年間、私は北欧の一国スウェーデンのストックホルム大学へ留学してきました。今、そのことを振り返ると、この留学は私にとって初めての海外であったにもかかわらず、スウェーデンについて知っていることと言えば世界最高の福祉国家・白夜・バイキング・テニスの強い国・ボルボやサブくらいでとても予備知識とは言えない程度でした。ひょっとしたらまったくの暴挙であったかもしれませんが、その国について頭でっかちになっていなかったのだから見るもの聞くものがとても新鮮でした。

私がなぜスウェーデンか？留学先を決めるのはとても重要なことです。情報の豊かでない国に行くことへの不安もあり、いろいろと悩みました。結局、私の主な研究テーマの主観的運動強度の創始者であり、権威者である

ボルグ教授がスウェーデンにいたことが大きな理由となり、正解だったと思います。これからは海外へ勉強をしに行く人が増加する一方だと思います。行くならトップのところへ行くべきだと思います。

勉強はストックホルム大学の心理学部の知覚・物理学科とカロリンスカ研究所の所属であるG.I.H.（体操・スポーツ大学）の2か所でさせていただきました。心理学部では運動中の主観的な運動強度からその人の最大作業能力を推測することと漸増運動中の血中乳酸濃度の動態について、そしてG.I.H.では低圧状態での主観的運動強度について勉強してきました。

ストックホルム大学とG.I.H.では少し研究の仕方が日本と違いました。ともに研究者自体が実験をする事はまれです。ストックホルム大学では研究者に雇われた人が、G.I.H.ではカロリンスカ研究所に雇われたテクニシャンと呼ばれる人々がいて実験をしてくれます。

研究者は実験の計画を立てるだけで実験のデータを得ることができ、そのデータを元に論文を書くことが仕事です。日本では実験の計画から始まって実験、データ整理そして論文を書くまですべて己でしてこそ1人前という考え方があるように思います。両国の研究に対する考え方の違いを見たようでした。

ところで、スウェーデンと言われてもピンとくる人は少ないと思います。スウェーデンの地形は日本と同じく縦長で面積は日本の約1.2倍ですが、日本よりも約20度北に位置しています。したがって、夏至と冬至との日照時間の差がとても大きく、ストックホルムでは夏至の6月21日の日の出は午前2時半、日没は午後9時、逆に冬至の12月21日の日の出は午前9時、日没は午後2時半とほとんど夏と冬では昼夜の時間が逆になってしまいます。

実際には、9月頃から日照時間は日に日に短くなっていくのがわかり、天気と同じで気持ちも暗く暗くなくなって行きます。朝、真っ暗の中ベッドから起き出し大学へ行き、真っ暗の中家路につく、思い返してみてもゾッとします。この頃、スウェーデン人はとてもお酒を飲むようになり、金曜日の夕方の地下鉄は買い物袋の中でワインの瓶をカチンカチンと鳴らしながら帰るサラリーマンで一杯です。スウェーデンではお酒を自由に買うことができません。システムボラーゲンという公営の酒屋があるだけで、税金の高さもあいまってお酒はとても高額なのですが、とてもたくさんの方がお酒を買い求め、30分以上も待ってお酒を買っていくのもそれほど珍しくありません。外は非常に寒く、昨年は暖冬でしたが、それでも夜は-20℃まで冷え込み外に出るのもおっくうになりお酒に走るのも無理はないと思います。アルコール依存症が1つの社会問題となっていますが、土地柄、避けて通れない問題のような気がします。2月も過ぎると日は加速度的に長くなります。スウェーデン人は夏と冬の性格がまったく違ってくると言いますが、本当に日が長くなるにつれて人々の顔も陽気になって見えます。5月には長かった冬に別れを告げて春を飛び越えて一気に夏になったようです。男も女もまるでローストビーフのように真っ赤になるまで日光浴を楽しみます。太陽の偉大さを感じる時期でもあり、目のやり場に困る時期でもあります。スウェーデンの家庭生活は日本と異なりま

す。一般に、男性も女性も働きに出ていて女性の結婚退職というのがないようです。もちろん、職場の条件は男女平等です。しかも男性も家事ができないと1人前とは言われません。日本の男性にとっては耳が痛い話かもしれませんが。結婚に関しては、結婚をする前に婚約の状態と同棲するのが一般的で、性に関しても日本と比較して解放的なように思います。

ご存知のように税金はとても高く、物価も日本よりも高いと思います。しかし、社会全体の貧富の差がないように思いますし、社会福祉や公共施設はすばらしいものがあります。過去のソ連の書記長がスウェーデンを訪れた際「我々が創りたかったものがここにある！」と言ったとか言わないとか？人々は貯めるために働かず、遊ぶために働くなんて姿を見ると社会福祉に関してとても進んだ1つのモデルとなる政治が行われていると感じます。その反面、ずる休みをした方が給料が高くなるといった矛盾した福祉政策から労働意欲の低下といった別の問題が起こっています。人間の本来の姿について考えさせられてしまいます。

まとまりもなくつらつらと書いてきましたが、最後にこの留学を振り返って、外国語で勉強することの難しさを改めて感じました。そして、いろいろな留学情報誌に書いてあるような楽しいことばかりではなく、文化や習慣の違いに戸惑うことも多くありました。しかし、だからこそ得るものも多かったと確信しています。



スウェーデンの夜祭